

学生時代、勉強ができた人は、「君は、優秀だね」と親や先生からほめられてきたことでしょう。また、同級生からも「君はいいな」とうらやましがられたかもしれません。そういうとき、ちょっと調子にのってしまい、掃除や当番をさぼったとしても、「あの子は受験勉強が大変だからまあ、しょうがないか…」と大目に見てもらえたかもしれません。また、勉強ができない子に向かって「何でこんなにカンタンな問題が できないの？」と言ったとしても、「あの子は優秀だから そう言われても、しょうがないや」と大目に見てもらえたかもしれません。しかし、社会に出てから仕事が忙しいからといって、みんな交代でやることになっている掃除や当番をさぼったとしたらどうなるのでしょうか？「アイツはずるい！」「イヤなやつだ！」とその人に対する評判は一発で下がります。また、仕事に慣れない部下に向かって、「何でこんなにカンタンなこともできないの？」と言ったらどうなるのでしょうか？部下がその一言に傷ついてしまい「私の上司が私のことをバカにするんです…」と社内中にふれまわるかもしれません。また「上司と合わないので、会社を辞めます」と言い出す人がいるかもしれません。学生時代は通用していたことが、「社会」では通用しなくなる。学生時代、優等生だった人ほどそのギャップに悩むことでしょう。

しかし、私に言わせると、「社会」で起こることの方が正しいのです。ズバリ言ってしまうと、「社会」というのは、あなたが本当に優秀かどうかを見られてしまうところなのです。社会に出てから「優秀な人」と言われるのは仕事の成績がいいことだけを言うのではありません。ちょっとぐらい大変なことがあっても、いつもニコニコして楽しそうに働いている人「あなたと働けて、幸せです！」「この会社で働けて、幸せです！」そんなふうに明るく言ってみんなのモチベーションを上げる人、部下を見かけたら、「がんばってるね」と常に声をかけて励ます人、もしも部下がミスをしたら、「これは私のミスなんです」と部下をかばって上に報告する人。そういう人って、一緒に働いているだけでパッと心に灯りがともります。「この人のそばにいたい！」と誰もが思うでしょう。社会に出てたら、そういう人を「優秀な人」というのです。何でもいいので、人に好かれることをする。ほんの小さなことでも、人の心を温めるようなことをする。それをしていれば、あなたは人から求められ「社会」という海を立派に渡っていけるのです。逆に、どんなに仕事の面では優秀であったとしても、人を傷つけるようなことを平気で言ったり、誠実さに欠けるようなことをしていると「社会」という海は渡っていきません。

「社会」ではあなたの本当の実力が試される。神は、実にうまいしくみを作ってくれたものだと思います。

Q 1 : 社会で優秀と呼ばれる人は、どんな人ですか？

A 1 : ()

Q 2 : あなたが思う「社会人として優秀な人」はどんな人ですか？

A 2 : ()